

優秀賞

# flora - みんなで育てる、まちの花

大西 優志 (大学2年生：茨城県)

flora は、街のみんながプレイヤーとなって遊ぶ、ローカルコミュニケーションゲームです。

## 【使うもの・場所・プレイヤー】

flora: あなたのまちの花です。最初はふたば。特殊なセンサーと電光掲示板がセットになっています。

駅: flora の家となる植木鉢を置いてくれる場所です。

みんな: 駅を毎日利用する、あなたたちのことです。

※このゲームは、現実世界の駅で実際の「花」を不特定多数のプレイヤー＝住民の手で育てるものです。

## 【あそび方】

駅に置いてある flora の植木鉢には、特殊なセンサーが付いています。

これは、flora の土が乾くと光ってお知らせし、周囲の人々に助けを求めます。

もし、flora の前を通りかかった時にランプが光っていたら、そっと水をあげてください。

みんなの手助けを得て、flora は毎日少しずつ成長していくことでしょう。

成長するにつれて、flora は少しずつ言葉を覚えていきます。そばに置いた電光掲示板であなたにメッセージをくれることでしょう。

花が咲き、種をつけたら、また来年遊べます。

## 【ゲームの背景】

スマホの普及、消費の個人化、趣味の多様化に伴い、現代の日本人はより閉鎖的なコミュニティを形成して生きています。そんな「個化」が進む日本でも、みんなが一様に利用する「駅」。この数少ない「みんなの場所」で、毎日少しずつでも地域の人同士がコミュニケーションをできるゲームはないか、と思い立ち考えたのが「flora」です。直接関わることは恥ずかしくても、「花」という非人間的な存在を介せば間接的には「みんな同じコミュニティで生きている」という気持ちを共有できるのではないのでしょうか。その「ゆるいつながり」が暮らしを豊かにすることになれば幸いです。

僕は今回、「暮らしを豊かにする」という点に着目し、みんなの生活にすでに馴染んでいるもので、かつ、遊んだ一瞬だけ「楽しい」「嬉しい」のではなく、日々を重ねることでより「幸せ」な気持ちになれるゲームを考えようと思い、「駅」という場所と「花」というものを使おうと思いました。